

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校群馬自動車大学校
設置者名	学校法人小倉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数 又は授業時数	省令で定める 基準単位数又は授業時数	配置困難
自動車整備 専門課程	一級自動車整備科	夜・通信	1494 時間	160 時間	
	二級自動車整備科	夜・通信	1894 時間	160 時間	
	自動車車体整備科	夜・通信	1104 時間	80 時間	
	カスタマイズ科	夜・通信	1183.5 時間	80 時間	
	国際メカニック科	夜・通信	2102 時間	240 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページによる https://www.gaus.ac.jp/basic/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校群馬自動車大学校
設置者名	学校法人小倉学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本校ホームページによる
<https://www.gaus.ac.jp/basic/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2025.5.28～選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時	法務
非常勤	元株式会社役員	2025.5.28～選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時	法人運営の チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校群馬自動車大学校
設置者名	学校法人小倉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学科については、教科書(日本自動車整備振興会連合会 発行)に記載された当該授業科目の内容を理解できることを目標に、補助教材(自動車メーカー独自の解説書や視覚教材など)を用いて計画を作成する。 実習については、当該授業科目の作業に習熟することを目標に、補助教材(教材車両、単体教材、実習ノート、視覚教材など)を用いて計画を作成する。 学科、実習ともに国家資格を取得できるだけの知識レベルに加えて、新技術に対応できる知識、技術の修得ができるよう、また、学外の委員も交えた教育課程編成委員会からの提案、要望等も考慮して授業内容を検討する。 国際メカニク科については、3年間で2級課程の知識と技術を修得できるよう進度に余裕をもたせて授業計画を作成する。 カスタマイズ科については学科、実習ともにオリジナルカーを作成するために必要な知識と技術を、入学までに培った知識と技術に加えて修得できるよう配慮して、授業計画を作成する。 授業計画の作成にあつては年度末までに、公表にあつては入学式までに行うこととする。	
授業計画書の公表方法	本校ホームページによる https://www.gaus.ac.jp/basic/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 一級自動車整備科 学科・・・全授業科目において、出席率 90%以上で且つ、試験の得点が 70 点以上で履修を認める。 実習・・・全授業科目において、出席率 95%以上で且つ、試験の得点が 70 点以上（作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、実技試験 70 点の割合とする）で履修を認める。 教養・・・出席率 60%以上で履修を認める。 ただし、出席率が 95%未満の場合は補習授業を受講して 95%を満たすこと。また、試験得点が 70 点に満たない場合は再試験を受験して 70 点以上の得点とすること。 なお、成績については得点評価の他に、次の評定を用いる場合もある。 A⇒100～90 点 B⇒89～80 点 C⇒79～70 点 D⇒69 点以下 一級自動車整備科以外の科 学科および実習における試験の得点が 60 点以上で履修を認める。他の要件は一級課程に同じ。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を 100 点とした得点。 実習においては、作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、授業途中または授業終了時に行う実技試験 70 点の割合とする、満点を 100 点とした得点により成績評価を行う。 前期終了後および、学年終了後には、授業科目ごとに出席率、得点評価、遅刻・早退回数、欠席日数、欠席時間数、クラス順位、学年順位が記載された成績通知表を送付する。なお、成績順位については当該学年に配分された全科目の得点合計に対する平均点で算出される。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校ホームページによる https://www.gaus.ac.jp/basic/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページによる https://www.gaus.ac.jp/basic/

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	専門学校群馬自動車大学校
設置者名	学校法人 小倉学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.gaus.ac.jp/basic/
収支計算書又は損益計算書	https://www.gaus.ac.jp/basic/
財産目録	https://www.gaus.ac.jp/basic/
事業報告書	https://www.gaus.ac.jp/basic/
監事による監査報告（書）	https://www.gaus.ac.jp/basic/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【一級自動車整備科】

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		自動車整備専門課程	一級自動車整備科		平成 25 年文部科学省告示第 2 号		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,699 単位時間	743 単位時間		1,122 単位時間		228 単位時間
			2,093 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		93 人	0 人	7 人	9 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科については、教科書（日本自動車整備振興会連合会 発行）に記載された当該授業科目の内容を理解できることを目標に、補助教材（自動車メーカー独自の解説書や視覚教材など）を用いて計画を作成する。

実習については、当該授業科目の作業に習熟することを目標に、補助教材（教材車両、単体教材、実習ノート、視覚教材など）を用いて計画を作成する。

学科、実習ともに国家資格を取得できるだけの知識レベルに加えて、新技術に対応できる知識、技術の修得ができるよう、また、学外の委員も交えた教育課程編成委員会からの提案、要望等も考慮して授業内容を検討する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を100点とした平均得点。

実習においては、作業に取り組む姿勢10点、課題レポートまたは日報20点、授業途中または授業終了時に行う実技試験70点の割合とする、満点を100点とした得点により成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準

(概要) 学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。
学修支援等
(概要) ・個人面談の実施、保護者との面談の実施 ・通信制大学授業の併修 ・一級小型自動車整備士学科試験のための特別授業の編成 ・同口述試験のための卒業後の指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
57 人 (100%)	0 人 (0%)	57 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 各メーカー系ディーラーへの就職 91%、自動車メーカーへの就職 7%			
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接試験の指導、企業訪問等の指導は主としてクラス担任が行う。10月から 1 月にかけては、進路指導部より 1 日につき 1 社を基本として関連企業を招聘し、校内で説明会を開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 一級小型自動車整備士試験受験資格（実技試験免除） 通信制大学卒業資格（経営学士）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	1 人	1%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任およびスクールカウンセラーによる個別相談		

【二級自動車整備科】

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	自動車整備専門課程	二級自動車整備科	平成 20 年文部科学省告示第 12 号	
修業	昼夜	全課程の修了に必要な総	開設している授業の種類	

年限		授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,908 単位時間	885 単位時間		1,244 単位時間		
2,129 単位時間							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
500 人	281 人	9 人	16 人	人	16 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科については、教科書（日本自動車整備振興会連合会 発行）に記載された当該授業科目の内容を理解できることを目標に、補助教材（自動車メーカー独自の解説書や視覚教材など）を用いて計画を作成する。

実習については、当該授業科目の作業に習熟することを目標に、補助教材（教材車両、単体教材、実習ノート、視覚教材など）を用いて計画を作成する。

学科、実習ともに国家資格を取得できるだけの知識レベルに加えて、新技術に対応できる知識、技術の修得ができるよう、また、学外の委員も交えた教育課程編成委員会からの提案、要望等も考慮して授業内容を検討する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を 100 点とした平均得点。

実習においては、作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、授業途中または授業終了時に行う実技試験 70 点の割合とする、満点を 100 点とした得点により成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。

学修支援等

（概要）

- ・個人面談の実施、保護者との面談の実施
- ・二級自動車整備士学科試験のための特別授業の編成

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
122 人 (100%)	72 人 (59.0%)	50 人 (41.0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 各メーカー系ディーラーへの就職 90%			
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接試験の指導、企業訪問等の指導は主としてクラス担任が行う。10 月から 1 月にかけては、進路指導部より 1 日につき 1 社を基本として関連企業を招聘し、校内で説明会を開催している。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 二級ガソリン自動車整備士試験及び二級ジーゼル自動車整備士試験受験資格(実技試験免除) ガス溶接作業資格、アーク溶接作業資格、損害保険募集人資格、ソーシャル検定中級などの資格を取得することができる。 (備考) (任意記載事項)
--

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
271 人	13 人	4.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および学年担当教員、スクールカウンセラーによる個別相談		

【自動車車体整備科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車整備専門課程	自動車車体整備科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1,091 単位時間	395 単位時間		804 単位時間		
			1,199 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		23 人	1 人	1 人	1 人	2 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 学科については、教科書(日本自動車整備振興会連合会 発行)に記載された当該授業科目の内容を理解できることを目標に、補助教材(自動車メーカー独自の解説書や視覚教材など)を用いて計画を作成する。 実習については、当該授業科目の作業に習熟することを目標に、補助教材(教材車両、単体教材、実習ノート、視覚教材など)を用いて計画を作成する。 学科、実習ともに国家資格を取得できるだけの知識レベルに加えて、新技術に対応できる知識、技術の修得ができるよう、また、学外の委員も交えた教育課程編成委員会からの提案、要望等も考慮して授業内容を検討する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を 100 点とした平均得点。 実習においては、作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、授業途中または授業終了時に行う実技試験 70 点の割合とする、満点を 100 点とした得点により成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準
(概要) 学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。
学修支援等
(概要) ・個人面談の実施 ・自動車車体整備士学科試験のための特別授業の編成

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	9 人 (34.6%)	17 人 (65.4%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備専門工場及び各メーカー系ディーラーへの就職 99%			
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接試験の指導、企業訪問等の指導は主としてクラス担任が行う。10 月から 1 月にかけては、進路指導部より 1 日につき 1 社を基本として関連企業を招聘し、校内で説明会を開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 自動車車体整備士試験受験資格（実技試験免除）。 有機溶剤作業主任者資格を取得することができる。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および学年担当教員、スクールカウンセラーによる個別相談		

【カスタマイズ科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車整備専門課程	カスタマイズ科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1,154 単位時間	217 単位時間		1,027.5 単位時間		
			1,244.5 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		9 人	0 人	1 人	1 人	2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学生が主体となり、コンセプトの立案からテーマの選定、車両デザイン、製作の過程を経て、1 年間でオリジナルカーを創り上げます。二級自動車整備士養成課程及び自動車車体整備士養成課程で培った知識と技術を基に、車両製作に係る様々な知識と技術を修得できるよう計画する。

実習は少人数グループで、ベースになる車両を完全に解体した後、各部品について磨き、塗装、組み立て、調整、改造を施し、更には新たな部品を作成するなど、様々な技術を修得できる内容とする。

成績評価の基準・方法

（概要）

学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を 100 点とした平均得点。

実習においては、作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、授業途中または授業終了時に行う実技試験 70 点の割合とする、満点を 100 点とした得点により成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。

学修支援等

（概要）

- ・個人面談の実施、保護者との面談の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 自動車整備専業工場及び各メーカー系ディーラー、自動車製造業への就職 100%
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接試験の指導、企業訪問等の指導は主としてクラス担任が行う。10月から1月にかけては、進路指導部より1日につき1社を基本として関連企業を招聘し、校内で説明会を開催している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 自動車車体整備科で修得した知識・技術を駆使して、学生自ら創作したカスタマイズ車両を制作する。完成した車両は東京オートサロンに出展し、学生が来場者に制作過程等の説明をする。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、スクールカウンセラーによる個別相談		

【国際メカニック科】

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		自動車整備専門課程	国際メカニック科		平成 30 年文部科学省告示第 31 号		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,338 単位時間	1,510 単位時間		1,232 単位時間		
			2,742 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		181 人	176 人	9 人	0 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 学科については、教科書（日本自動車整備振興会連合会 発行）に記載された当該授業科目の内容を理解できることを目標に、補助教材（自動車メーカー独自の解説書や視覚教材など）を用いて計画を作成する。 実習については、当該授業科目の作業に習熟することを目標に、補助教材（教材車両、単体教材、実習ノート、視覚教材など）を用いて計画を作成する。 学科、実習ともに国家資格を取得できるだけの知識レベルに加えて、新技術に対応できる知識、技術の修得ができるよう、また、学外の委員も交えた教育課程編成委員会からの提案、要望等も考慮して授業内容を検討する。

3 年間で 2 級自動車整備士として必要な知識と技術を修得するため、授業の進度はゆとりを持って計画する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学科においては、授業途中または授業終了時に行う筆記試験における満点を 100 点とした平均得点。 実習においては、作業に取り組む姿勢 10 点、課題レポートまたは日報 20 点、授業途中または授業終了時に行う実技試験 70 点の割合とする、満点を 100 点とした得点により成績評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則の定めるところにより、すべての設置科において、当該学年において配分された全授業科目において履修を完了することが、進級または卒業の要件となっている。また、進級・卒業判定会議を行い、その時点で未履修の授業科目を持っている学生については状況により補習授業、再試験を行う。
学修支援等
(概要) ・個人面談の実施 ・三級自動車整備士試験及び二級自動車整備士学科試験のための特別授業の編成

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	1 人 (7.1%)	13 人 (92.9%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備専業工場及び各メーカー系ディーラーへの就職 100%			
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接試験の指導、企業訪問等の指導は主としてクラス担任が行う。10 月から 1 月にかけては、進路指導部より 1 日につき 1 社を基本として関連企業を招聘し、校内で説明会を開催している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 二級ガソリン自動車整備士試験及び二級ジーゼル自動車整備士試験受験資格（実技試験免除）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
121 人	13 人	10.7%
(中途退学の主な理由) 経済的困窮		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任および学年担当、スクールカウンセラーによる個別相談、学費の分納制度

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
一級自動車整備科	330,000 円	440,000 円	536,000 円	
二級自動車整備科	330,000 円	440,000 円	536,000 円	
国際メカニック科	330,000 円	440,000 円	360,000 円	
自動車車体整備科	330,000 円	440,000 円	536,000 円	
カスタマイズ科	330,000 円	440,000 円	536,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
内部進学者は入学金免除				
国際メカニック科の留学生は入学年度の入学金のうち 10 万円を免除				
二級自動車整備科は学力特待制度による入学金からの減免制度あり				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.gaus.ac.jp/basic/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
自己評価委員会が行った評価について評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、関係者の理解促進・連携協力による学校運営の改善を図り、併せて説明責任を果たす。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
日産プリンス群馬販売 株式会社	2024.4.1～2026.3.31	関係企業
株式会社 千明自動車	2024.4.1～2026.3.31	関係企業
関東いすゞ自動車株式会社	2025.4.1～2027.3.31	関係企業
株式会社 ホンダカーズ群馬	2024.4.1～2026.3.31	卒業生
有限会社 粕川自動車	2025.4.1～2027.3.31	PTA 関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.gaus.ac.jp/basic/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<https://www.gaus.ac.jp/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H110310000021
学校名（〇〇大学 等）	専門学校 群馬自動車大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人小倉学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		62人（－）人	60人（－）人	63人（－）人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	27人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	13人	13人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	12人	－人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	11人	－人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－人	－人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				63人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	15人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	15人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。